

# みたかの芸術文化

第 56 号

三鷹市芸術文化協会

三鷹市新川 6-37-1 三鷹中央防災公園・元気創造プラザ 4F  
2024 年（令和 6 年）3 月発行



50 周年記念公演 フィナーレ

## 地域に根ざした芸術文化

会長 田山 光興



今年は新年早々から能登半島大地震、羽田空港衝突事故と、大災害に見舞われ、関係者の方々の悲しみと苦しみに、言葉がありません。一日も早い立ち直り、復興を願うばかりです。

さて、昨年は三鷹市芸術文化協会（以下「芸文協」）にとって大きな節目となる年でした。創立五十周年を迎え、八月に舞台と展示で記念行事を開催し、関係者のみならず、多数の来場者から賞讃を受けました。また、十一月には市民文化祭も七十周年を迎え、ほぼコロナ禍の前の賑わいを取り戻しました。特記すべきは、芸文協加盟二十三団体全てが行事を実施したことです。ご来場いただいた市民の皆さんと会員の皆さんの積極的なご協力に、心より感謝します。

四月から、公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団に事務局の運営をお願いします。これまでと勝手が違う部分があるかもしれませんが、助言をいただければ幸いです。

芸文協は未来を創る子どもと会員を大事にします。今年立ち上げた広報委員会の成果も期待しています。地域に根ざした芸術文化を守り、育てることは、芸文協の使命とも言えます。日々の地味な稽古や練習を土台に、一丸となって取り組んでいきましょう。

# 50周年記念事業

加盟団体と会員が一つになって

委員長 大浦 美紀子

はじめに、昨年の8月に三鷹市芸術文化協会の50周年記念事業が、会員皆様のご協力により、盛会裏に終りましたことを心よりお礼申し上げます。

記念事業特別委員会は、令和4年6月に第1回会議が開催され、会議では50周年事業として記念公演、記念展示会および祝賀会の開催、記念誌の発行を行うことを取り決めました。さらに全体的な調整は記念事業特別委員会で行い、各事業を実行する委員会として「記念公演委員会」「記念展示委員会」「記念誌委員会」「祝賀委員会」の4つを立ち上げるようになりました。その後、「祝賀委員会」はコロナ禍等の状況もあり見送ることとなりましたが、

最終的には、記念公演委員会(13名)、記念展示委員会(10名)、記念誌委員会(3名)の3つの委員会が事業実施に向けて精力的に取り組みを行いました。

その成果として、記念公演は、8月20日公会堂光のホールで各団体が単独、コラボ共演などにより13演目が披露され、とても中身の濃い豪華で華やかな公演となりました。特にコラボ共演は、公演部門と展示部門の枠も越えて普段異なる演目を演じる団体同士が一つの演目を披露します。邦楽連盟もそうでしたが、他の団体におかれましても共演者と息を合わせるのに、短期間での猛練習と大変なご苦労があったこと存じます。記念展示会は、8月18日

、20日の3日間開催され、絵画・生け花・工芸・書道・短歌・俳句の各作品がさんさん館2階展示室で展示されました。生け花には前回と同様、市から借用した縄文土器が花器に使用され、注目を浴びました。

記念誌作成は、前回より少ない3人での担当となり、編集会議を精力的に進め8月20日発行に向けて努力を重ねての完成となりました。大変お疲れ様でした。

今回の50周年記念事業では、直近3年余りのコロナ禍で相当の活動制限があり、事業当時もその影響が少なからず続く中、これだけの催しができましたことは、本当に素晴らしいことです。「光のホール」と「さんさん館」で公演部門と展示部門、23団体が一堂に会して披露できる催しは、さらに多くの市民の皆様を知っていただけのように工夫することが求められている時であると存じます。

(邦楽連盟)



日本の詩～小さい秋みつけた 他  
邦楽連盟と合唱連盟のコラボ共演  
(記念公演)



日本古来の文字「ホツマツタエ」(右)  
花が生きる縄文土器 (左)  
(記念展示会)

## 記念公演

## 50周年記念公演を

## 振り返って

委員長 岡本 るみ子

このたび、委員長を任せられることになりました。40周年記念公演時の記録がほとんど残っていなかったため、舞台の設営状況や予算など不明なことばかりで大変な状況でのスタートでした。具体的な案も3か月間まとまらず、舞台監督を外部に委託して年明けからやっとプログラムの準備作業に取り掛かることができました。各団体の意見や要望にも金銭的・時間的な制限がある中、できる限り対応させていただきました。

公演当日4時間に亘った本番は、第1部及び第2部が単独参加やコラボレーション参加による公演、第3部が四季をテーマにした合同公演とグランドフィナーレという3部構成で上演いたしました。公演では、



俳句のお題による創作バレエ

各団体とも日頃の練習の成果を十分に発揮していただき、50周年記念公演にふさわしい豪華な公演となりました。その結果、客席の方々からもとても高い評価をいただいたことは大変ありがたく思っております。

次の60周年記念公演に向けても、皆様の心が一つとなつて大盛会となりますように切に祈念いたします。

なお、最後になりましたが、会員の皆様や三鷹市及び三鷹市教育委員会ははじめ多くの関係者の皆様からご協力いただきましたことに對し、深く感謝申し上げます。

(洋舞連盟)

## 楽しさあり

## 発見ありの演奏会

奥山 由美

まだ暑い夏の日曜日夕方、三鷹市公会堂のホールは活気にあふれていました。

私たち三鷹市吹奏楽団(通称「鷹吹」)は、芸文協50周年記念舞台公演で普段から仲良くさせていただいている三鷹市PMSジャズオーケストラと久しぶりに同じ舞台で演奏できることになり、嬉しさも緊張が入り混じった気持ちで舞台上にいました。

今回は良い機会なので同じ「士官候補生」という曲目を取り上げ、鷹吹は皆さんが良くご存知のマーチ(行進曲)形式で演奏し、その後PMSがジャズアレンジされたものを演奏するという企画を盛り込みました。同じメロディーを違った雰囲気でも聴き比べていただけて好評でした。

さらにそれぞれ1曲ずつを披露した後、最後は両団



吹奏楽団とPMS ジャズオーケストラのコラボ共演

体合同で「イン・ザ・ムード」を演奏しました。鷹吹は今回クラシカルなマーチをメインに演奏しましたが、ジャズ系曲目も普段からよく演奏しています。ですが、やはりPMSの皆さんと一緒に演奏させていただく中で、楽しさもあり発見もあり、お客様に楽しんでいただくのと同時に団員一同とても良い時間を過ごすことができました。

開催にご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。

(吹奏楽団)

## 深い絆に感謝

花柳 衛与志

(小林美佐夫)

今回の三鷹市芸術文化協会50周年記念事業で、日本舞踊連盟は初めに邦楽連盟さんとのコラボによる「四季の柳」に現れる日本舞踊を披露いたしました。箏・三味線・唄・尺八・篠笛の合奏の中の舞踊であり、他団体との共演による催しは息を合わせた舞台が大きな課題でした。しかし、一つのテーマに両団体の皆様方全員が協力し合うことができ、とても息の合った良い舞台とすることができました。

次に、今度は日本舞踊連盟だけで「五人立の長唄 俄獅子」を披露いたしました。公演内容が決まってから開催まで非常に短い時間でしたが、振付を考え、そして踊りの猛稽古と、会員が心を一つにして取り組みました。おかげ様で舞台も成功裏に終わり、色々苦労はありましたが、会員一同



「四季の柳」  
日本舞踊連盟と邦楽連盟の  
コラボ共演



が深い絆で結ばれたような  
気持ちが出て、私自身とて  
も大きな喜びを感じるこ  
とができました。  
三鷹市の芸術文化をより  
多くの皆様方に知って  
いただき、今後とも芸術文化  
の振興に努めてまいりたいと  
存じます。(日本舞踊連盟)

心を込めて伝える  
影マイク(司会)

橋本 凱泉  
(橋本ルリ子)

これまでにない企画で新  
しい試みも多かった50周年  
記念公演でした。わずか13  
分という持ち時間で、邦楽  
あり、洋楽あり等々分野の  
異なる団体の代表による舞  
台発表はとも見応えある  
内容でした。  
演目は違えども3部構成  
のプログラムを一つにまと  
まる公演にしたいと願って  
いましたので、影マイクで



司会に活躍する橋本凱泉さん



流れる声が一貫して私の声  
であったことも有効だった  
と言えるかもしれませぬ。  
観客席には次の出し物を楽  
しみにしてもらい、またス  
テージに立つ側の方々には  
気持ちよくスタートできる  
ように、と心掛けてアナウ  
ンスしました。  
余談ですが、10年前の記  
念公演で「奏・謡・舞」と  
いうタイトルを考えたのは  
私です。できれば10年後も  
「奏でる、謡う、舞う」と  
いうタイトル文字が躍動し  
てくれていたらいいなあと  
思います。(吟詠連盟)

記念展示会

「記念展示会」または  
「記念合同作品展」  
ひとつ味がう展示会に

委員長 尾本 政二

前回40周年の時の展示関  
係は、「さんさん館」の2  
階3階に分かれ散漫な感じ  
になったので、今回は2階  
だけに集約することで展示  
内容とレイアウトを検討し  
ました。特に展示内容につ  
いては、「50周年の行事」  
と言うからは例年の文化  
祭のミニ版のような個人作  
品の羅列では代わり映えし  
ないので、各団体がそれぞ  
れテーマ的なものを決めて  
作品を持ち寄ることにしま  
した。

俳句は「五十を詠み込ん  
で」18句、短歌は「三鷹を  
詠む」11首、華道は「三鷹  
出土の縄文土器に生ける」  
7点、絵画は「三鷹近辺の  
風景」9点と「この10年間  
の三鷹のトピックス」4  
点、それに書道・工芸の個

人作品を加え、狭いスペー  
スながらも充実した展示と  
なりました。

このことで普段あまり展  
覧会等に縁の無かった一般  
市民や、記念舞台公演のつ  
いでに覗いていただいた  
方々にも興味深く観ていた  
だけたのではないかと思っ  
ています。

約1年かけたこの委員会  
活動の中で、あまり交流の  
なかった他ジャンルの方々  
と一つの目標に向かって討  
議し協力しあう雰囲気醸  
し出され、有意義なひと時  
を過ごすことができました。  
(美術連盟)



記念展示会場の様子

### 50周年記念展示会を見て

清水 八千代

記念展示会を見て廻りました。

書道は皆能筆で私には読むこともなかなか難しかったのですが、その中で懐かしい文字を見つけました。「これ、ホツマツタエですよね?」そうです。誰に話しても本気になってくれない日本古来の文字です。」と言われ、「ここで、ホツマツタエに出会えるなんて」と、とても嬉しく思いました。次に短歌、俳句では短い文の中に自分の想いと景色を読み込み、俳句では50周年に因んで50を読み込んでありました。苦労して作った跡を垣間見ることができました。絵画は三鷹周辺を題材に、社会教育会館、丸池公園、野川の桜、元氣創造プラザなどが描かれ、懐かしさや親近感を感じ、絵心のない私もただ見入ってしまいました。さらに華道は、縄文土器に飾り付けら

れた作品が各スペースに配置され、会場を華やかなものにし、昔の人が作った縄文土器という作品に改めて感動しました。

そして工芸ですが、押し花絵、能面、木彫りです。押し花絵は根気やセンスがなければ、到底できません。能面はじっと見ていると、それぞれが微笑み、怒り、寂しさ、嫉妬、内にこもる感情が現れています。木彫りは作者のセンスと気持ちがかもっています。最後に、今回の50周年記念事業を通して痛感したこととは、人間には自然に還らなければならぬ年月があり、芸術は永遠で大切なものであるということです。(工芸同好会)



工芸作品 (記念展示会)

### 記念誌

#### 100周年を楽しみに!

委員長 岡本 るみ子

今回は、芸術文化協会50周年ということで、半世紀を刻んだ記念誌の編集であり、当初はどのように記念誌を作成していくか、頭を悩ませました。この50年間の記録を掲載することも一つの手法でしたが、編集委員の人数、時間や予算の制約もあり、基本のベースは

これまでの記録に基づくということとで落ち着きました。

また、掲載写真をすべてカラーにできれば、とても見やすい記念誌になったことと思いますが、予算的に難しかったため、カラー部分が「写真で見ると10年のあゆみ」の10ページだけになったことは残念でした。

100周年の折には、ぜひ1世紀に渡った活動の記録を盛り込むとともに、オールカラーの記念誌であることを願っております。



記念事業パンフレット



50周年記念誌



展示会プログラム



公演プログラム

### 記念式典

8月20日、三鷹市公会堂「光のホール」で三鷹市芸術文化協会創立50周年記念式典が開催されました。式典は、市長、市議会議長、教育長をはじめとした多くの来賓の方々をお招きし、盛大に執り行われました。

式典の中、河村孝三鷹市長および貝ノ瀬滋教育長より三鷹市芸術文化協会に対し、市の芸術文化における、これまでの同協会の貢献、功績が認められ、感謝状が授与されました。



三鷹市芸術文化協会への感謝状

第70回 三鷹市市民文化祭



吹奏楽のつどい



囲碁大会



俳句会



現代日本舞踊の会



吟詠剣詩舞大会



短歌会



伝統文化と和みの会



工芸展



民謡大会



三鷹の囃子と和太鼓大会



'23 洋舞フェスティバル



謡曲・仕舞大会

## 市民文化祭「午後のクラシック」について

午後のクラシックは、音響の豊かな「風のホール」で近在のアマチュアグループが日ごろの練習の成果を気軽に発表できる場として開催されています。第70回市民文化祭では16団体が参加し、小編成の管弦楽、弦楽四重奏、ギター、フルート、ハーブなど各種楽器により多彩な演奏が披露されました。



午後のクラシック

演奏者、来場者合わせて474名の方が参加し、大盛況の催しとなりました。毎年、企画、各演奏団体の連絡・調整、プログラムの

作成、当日のリハーサル、舞台進行管理など多岐にわたる作業を三鷹市管弦楽団が主管し、各団体の協力のもと実施しております。

(管弦楽団)

## 三鷹菊花展について

三鷹菊友会は来年60周年を迎えますが、例年秋の菊花展をめざし春先から土づくりや病害虫対策作業を行い、秋の開花を待ちます。しかし、今年は夏の猛暑と秋の天候不順で花芽が遅れ、花形が例年より小振りになりました。でも、そうした中でも他市の菊花展より立派な菊花が飾られ、これも会員の努力の成果であると思っております。

芽作りは水やりと根作りが基本ですが、天候不順や病虫害に負けず思い通り大輪の花を咲かせた時はとても楽しい気持ちになります。

展示菊花の種類は丸く大きな厚物作り、横に花弁が咲く管物作り、平らな一文字作り等が主役で、他に背

の低いダルマ作りや補助作り、人気の中輪菊作り等があります。

今回の市民文化祭でも先輩会員の多い菊花作りが市民の皆さんにも楽しんでもらえたと考える幸せな菊花展でした。

最後に、市をはじめ多くの方々からご支援いただきましたことに深く感謝申し上げます。今後とも菊花の素晴らしさや菊花作りの楽しさをより多くの市民の皆様にも知っていただくよう努力いたします。

(菊友会)



菊花展

## 秋季茶会

三鷹市茶道連盟は、11月3日(文化の日)に井心亭で秋季茶会を開催しました。

天候にも恵まれ、大勢の皆様をお迎えすることができました。お茶券には春季茶会と同じように前もって入席時間を指定させていただきました。おかげさまで、混雑もなく、ゆったりとしたひとときを過ごしていただけたと思います。これも皆様のご協力のおかげと心より感謝いたします。

(茶道連盟)



秋季茶会

## 研修旅行に寄せて

瀧島 佳春  
(青木 玲子)

3年余のコロナ禍が解かれ、待たれた4年ぶりの研修旅行。

当日9月8日は奇しくも台風襲来。降りしきる大雨の中、参加者全員集合し、三鷹を出発しました。

車中PMS山下さんよりジャズ発祥から現代までの歴史についての講義がありました。益々降りしきる雨にもめげず、研修の目的地所沢市の角川武蔵野ミュージアムに到着。車中から目に飛び込んで来たのは、隈研吾氏デザイン監修の武蔵野台地から湧き出たマグマ「巨大な岩の建造物」。図書館と美術館・博物館融合の複合的ミュージアムであり、入場するや自由行動に。企画展のエジプト展から移動し、天井まで続く本の空間「本棚劇場」へ。4・5階8メートルの巨大本棚。



角川武蔵野ミュージアムの中で

次に向かったのは「ブックストリート」。棚の長さが異なっていたり凹凸していたり横に積まれた本ありで本の数に圧倒されっ放しでした。  
最後はそぼ降る1階「源義庭園」を眺めて休息し、ゆつくり再訪したいと思いつつ後にしました。最後に訪れた発酵食品のレストラの優しい味に魅了され、以来我が家の食卓は発酵食品三昧です。復路は台風も去り、実りある研修旅行でした。  
(華道連盟)

研修テーマ

「ジャズ」を楽しむ！

山下 政一

「ジャズ」は、20世紀初頭にアメリカの黒人たちによるヨーロッパの伝統音楽（いわゆるクラシック音楽や各地の民族音楽）とアフリカ音楽の融合から始まったものです。1920年代に現れたレイ・アームストロングをはじめとするごく少数の「天才」たちによって、ジャズのスタイルが確立し、「スウィング（躍動するリズム）」を伴う即興性の強い音楽」という形で成立し、現在まで発展してきました。

「ジャズ」で使用される楽器はクラシック音楽や吹奏楽と同じです。演奏においては、だいたい初めと終わりに「テーマ」部分があり、「作曲されたメロディー」「指定された和音進行・小節数」「指定されたリズム」により演奏され、間に「アドリブ」部分

として即興的な演奏が入り、何人かが順番にソロをとって「テーマ」に戻ります。大編成のバンドではオーケストラと同じように五線譜に書かれたものを演奏する部分が多く、その合間にソリストが即興演奏を行うのが一般的です。

今回の研修では、ご存じの方の多い曲「スター・ダスト」が小編成のバンドで演奏された例を聴いていただきました。アルト・サクスが有名なメロディーを即興的に変えながら吹く冒頭から、トランペット、テナー・サクス、ベース、ピアノ、ギターとソロが続き、最後にヴィブラフォンが叩き出します。足踏みする音や息づかいが聞こえて、熱気が伝わる名演です。同じ和音進行で、色々なメロディーが即興的に生み出されるところ、これが「ジャズ」の楽しさの一つだと思います。  
(PMSジャズオーケストラ)



ジャズ演奏

感謝状

本年度、周年を迎えた次の団体に対し、市民文化祭の発表会当日、それぞれの会場で河村市長より感謝状が授与されました。

- ・三鷹市PMSジャズオーケストラ 創立60周年
- ・三鷹市華道連盟 創立60周年
- ・三鷹短歌会 創立60周年

編集後記

「みたかの芸術文化」第56号は令和5年度の締めくくりとして、「50周年記念行事」の記事も掲載しました。ページ数も多く、読みごたえのある内容になっていることと思います。

編集委員会の会議では、ご覧になる方が「見やすく、分かりやすい内容にしよう」をテーマに進めてまいりました。機関誌も記念誌も同じテーマで完成することができました。

なお、各団体の皆さまには、原稿や写真の提出のご協力を賜りましてありがとうございます。深く感謝申し上げます。

これからも「みたかの芸術文化」が三鷹市芸術文化協会のかげがえのない歴史を記録する機関誌であり続けますように願っております。

- 編集委員長 岡本るみ子  
委員 山下 政一  
委員 清水八千代